

2025 年度第 2 回常任幹事会議事録（案）

日 時 2025 年 7 月 14 日（月） 14 時 00 分～

場 所 WEB 会議／日本分析化学会会議室（ハイブリッド）

出席者

[支部長] 菅原 [副支部長] 上野、梅林、敷野、島田 [監事] 菅沼、津越

[常任幹事] 青木、稻川、植田、梅村、岡村、勝又、東海林、高橋由、高橋（豊）、豊田、西垣、林、古庄、山口、由井

[幹事] 吉川、桑原、斎藤、鈴木（悠）、半田

[参与] 中村、山本

《司会：菅原支部長》

1. 前回議事録確認

2025 年度関東支部幹事会（新旧引継、4 月 2 日（水）開催）議事録＜菅原支部長＞

議事録【公開済】について確認・承認された。

なお今後、メール審議などで承認後に公開することとなった。

2. 報告事項

(1) 会計報告 <島田副支部長>

資料に基づき正味財産増減計算書、貸借対照表について報告があった。

(2) 理事会報告 <敷野副支部長>

4 月 25 日（金）に理事会において、2025 年度第 2 回理事会における本部会計、井上学術賞公募、第 86 回分析討論会についての報告があった。

（津越監事）

分析化学会年会・討論会において、大学研究室の学生のみが登録して、大学教員が登録していないケースが見受けられる。学会登録に協力を願いたいとのコメントがあった。

(3) 各誌編集委員会報告 <ぶんせき／分析化学／Anal. Sci. 各常任幹事>

- ・「ぶんせき」：資料に基づきぶんせき編集委員会の状況などについて報告があった。概ね依頼原稿は回収できているとの報告があった。また、JASISにおいてブースの出展すること、次回年会についても議論された。<高橋常任幹事>
- ・「分析化学」：資料に基づき分析化学編集委員会の状況、今後、2025【環】2026【波】をキーワードで特集号を編集するなどの報告があった。<東海林常任幹事>
- ・「Anal.Sci.」：特になし

(4) 各地区活動報告 <各地区担当>

- ・新潟地区：資料にもとづき、本年度の研究発表会について説明があった。<高橋由常任幹事>
- ・茨城地区：口頭で本年度の交流会について説明があった。<岡村常任幹事>
- ・群馬・栃木地区：口頭で本年度の交流会について説明があった。<稻川常任幹事>
- ・山梨地区、千葉地区からの報告はなかった。

(5) 若手交流会活動報告 <岡村常任幹事>

7/11～12日に開催された東日本分析化学若手交流会の報告があった。来年度は、関東支部単独での開催になる予定。

(6) ものづくり交流会活動報告 <豊田常任幹事>

5/31に開催されたものつくり技術交流会2025in 中国四国についての報告があった。

(7) 分析化学基礎セミナー報告 <敷野副支部長>

本年度の実施状況や計画について説明があり、7月の分析化学基礎セミナーが終了し、安全セミナーと基礎セミナーの開催が予定されているとの報告があった。

(8) 支部表彰募集の件 <菅原支部長>

資料にもとづき、2025年度の関東支部新世紀賞、新世紀新人賞について説明され、関係者への周知を依頼した。

3. 協議事項

(1) 学会賞等候補者推薦委員案について <菅原支部長>

資料にもとづき、学会賞等候補者推薦委員案の説明があり、承認された。

(2) 2027 年年会開催 <梅林副支部長>

2027年度の分析化学会年会についての開催概要や予算案について報告があった。実行委員のうち2名ほど確定はしていないとのこと。

津越監事、東海林常任幹事より開催日程や会場費について質問があった。9月後半となることで私学の講義が始まり、参加人数減少の可能性がある。会場費の予算にしめる割合が大きいように見える。

開催日程については、現在の会場で空きがないとのこと。会場の候補として、新潟大学もあるが、かなり交通の便が悪いため、朱鷺メッセとなったとのこと。また、津越監事より、数十年前に新潟大学で開催したこともあるため、再度大学での開催視野に入れてはとの提案があった。

4. その他

・基礎分析化学実習講習会について議論した。開催時期などについて、コロナ以前では、5月末に行っていた。その際には、新人研修に使われたケースがあったため、スタートアップの後に直ぐに5月末に開催することで集客力向上につながるのではないかとのご意見があった。

(高橋常任幹事、津越監事)

・分析イノベーション交流会の運営について議論した。本部に交流会を移管する可能性はある。これまでに本交流会の開催による分析化学会への寄与や成果が見られ、その成果を確認したうえで再度移管するかどうか判断したいとの意見があった。（東海林常任幹事）

津越監事：予算の都合上、発足時は関東支部が舵を切った経緯はある。しかし、分析イノベーション交流会は全国で行っているということから、本部移管について議論されているとの報告があった。

・若手交流会の運営について議論した。

企業・大学から若手交流会へのより多くの参加が望まれ幹事会からの周知の要望があった。

(東海林常幹事)

・複数の常任幹事より交通費などの支給・支援により参加するハードルが下がるのではとのご意見があった。

・会費改訂の提案（福井常務理事）

会費の値上げについて説明があった、値上げ幅は20%程度として、増収を行う。これにより、各支部や広報活動の活発化に充てて行きたいと考えている。提案内容は、各支部長に提出済み。また、会費収入費を原資とした分配例が提示された。それをうけ関東支部では、6割を7支部で均一分配し、40%を会員数で分配する案に賛成することとした。